

＜今日の説教のポイント ヨハネによる福音書 14 章 15～24 節＞

1 ヨハネ福音書には主イエスの昇天もペンテコステもない？！

暦の上では、今年は 5 月 21 日がイエス様の昇天日、その 10 日後の 31 日が弟子たちに約束の聖霊が与えられたペンテコステです。これは当たり前のように思っていますが、ヨハネ福音書ではこの二つの出来事なしに、復活された主が聖霊を弟子たちに吹きかけて宣教命令を与えられたと記されています(20:19-23)。どういうことでしょうか。

2 個々の出来事ではなく、出来事全体が目指す意味を考える！

イエス様が現れられ、奇蹟を行い、教えを解かれ、その後十字架の上で死なれ、三日目に復活された、これら一連の出来事を私たち信仰者は、ただ偶然に次々そういうことが続けて起こったのだ、とは受けとめません。神様が一つ一つのことの意味を込めてなされた出来事として受けとめ、その意味を福音的に捉えようとしています。ですから、ここでも昇天が持つ、あるいは、聖霊が弟子たちに与えられることが持つ積極的な意味は何なのかを考えることが大事なのです。

3 主なき後、聖霊が弟子たちを支えることが強調されている福音書！

とすると、キリストの昇天の積極的意味は何でしょうか。キリスト無しで弟子たちがやっていける者となることでしょうか。その時、主の昇天は意味あるものとなります。そこで次に与えられるものが聖霊です。聖書では、世界の創造(創世記 1:2)から、主イエスの誕生(マルコ 1:10)、十字架の死(マルコ 15:37、ヨハネ 19:30)、復活(ローマ 1:4)すべてに神の霊が関係しています。神様の業、神様が働かれることを聖書は聖霊で表現しているのです。大事なことは、聖霊はどのような物かということではなく、神様が働かれるということです。そして、この神様を受け入れた者にも、神様の同じ働きかけがなされるのです(ローマ 8:11。大事!)。ヨハネ福音書が言わんとするところです。

4 聖霊が注がれるとは、神様が働いて下さるということ！

昨日の「日々の御言葉」がこの教えを考えさせてくれましたので、それを読んでおきたいと思います。